



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2024.10.15

No.364

ふとい 太藺栽培の昔と今

馬込川流域では、かつて、太藺栽培が盛んに行われていました。天文年間（一五三二～一五五五）の頃、中央区十軒町にある臨川寺の住職が西の方から太藺を持ち帰り、栽培したのが始まりと言われ、天保年間（一八三〇～一八四四）の頃から本格的に太藺栽培が行われました。その後、水害対策のため十軒新田の太藺を寺脇でも栽培をしたことから次第に広がっていったとされています。

太藺は板の間に畳のかわりとして敷くムシロに加工され、浜松の特産にもなっていました。しかし、家庭への畳の普及や、栽培を辞め会社勤めを始める農家が増加したなどの理由から、昭和四〇年代には太藺栽培は衰退しました。現在では、中田島町の一軒の農家が行っているのみです。

現在、太藺栽培をしている中田島町の農家・杉山氏も昭和三〇年代まで太藺栽培をしていましたが、昭和四〇年代中頃からは栽培を辞め、会社勤めをしていました。その後、一〇年ほど前に太藺栽培を再開しました。再開の理由は、それまで栽培を続けていた白羽町の農家が栽培を辞めてしまったことがきっかけだったそうです。今回は、杉山氏から聞き取った昭和三〇年代と現在の太藺栽培の様子を紹介します。

昭和三〇年代までは、太藺の刈り取りは、夏（一番刈り）と秋（二番刈り）の二回行われていました。刈り取った太藺は約一〇センチに切りそろえ、ムシロに加工し、一〇枚ごとに白脇農業協同組合に出荷していたそうです。

一番刈りは、七月後半から八月初め頃に行われ、午前四時から七時頃までの間に、刈り取りから干すまでの作業が行われました。刈り取った太藺はスガイという藁で束ね、共有地であった浜まで担いで運ぶが、リヤカーに乗せて牛に曳かせて運びました。共有地である干し場の場所はずいぶん決め、午後一時頃まで干し、その作業を四日間かけて行

い、乾燥させました。二番刈りは十一月末から十二月にかけて行われました。

現在、太藺の刈り取りは夏のみに行っていきます。七月後半、陽が落ちてきた頃から親類が集まり協力して刈り取りを行います。



現在の太藺を干す風景



昭和 30 年代の太藺を干す風景
（『浜松市勢要覧』（昭和 35 年度）より）

す。

刈り取った太藺は、全て松本市に出荷され、民芸家具の製造のみに使用されています。以前は太藺をムシロの幅より少し長く切っていました。現在は使用用途に合わせて、一五〇センチの長さに切りそろえています。

太藺を干す時間は以前と変わりません。午前四時頃から作業を始め、浜ではなく、田んぼの前で乾燥させています。乾燥は四日かけて行われ、一日目は全体的に太藺を広げて乾かし、二日目から四日目は乾きづらい根本を先端にし、扇形に広げ、日にちが経っている太藺を上に乗せて乾かします。太藺を束ねる道具はスガイから布の紐に変わり、結び目の向きを変えて乾燥何日目の太藺が分るよう目印にしています。干す場所は変わりましたが、干し方は以前と変わりはないということです。

牛で運んだり、浜で干したり、ムシロを織ったりすることはなくなり、衰退していった太藺栽培ですが、中田島町では、現在も当時とほとんど変わらない方法で栽培されている光景を見ることができます。



ラッシュチェア
（松本民芸家具中央民芸ショールーム）



ムシロ
（旧高山家住宅）

【博物館所蔵資料の紹介】

小学尋常科高等科修業寿語禄



明治 24 年（1891）に出版されたすごろくです。紙面に多くのマスを作り、絵が描かれた絵すごろくは明治時代以降、盛んに作られました。当時の世相や風俗を反映し、多種多様なものが印刷され、特に児童雑誌の附録として定着しました。

絵すごろくは教育・教訓的なテーマを扱ったものも多く刷られ、「小学尋常科高等科修業寿語禄」は近代の学校制度を題材にしたすごろくになります。学校制度は、明治5年（1872）の「学制」から始まり、時代とともに制度や教科書が変わっていきました。明治 19 年（1886）に「小学校ノ学科及其程度」（文部省令第 8 号）が公布され、土地の状況によって尋常小学校の教科に、「図画」や「唱歌」が、高等小学校では「英語」、「農業」、「手工」、「商業」が加えることができ、「唱歌」を欠くことができました。

「小学尋常科高等科修業寿語禄」のマスには「読書」、「算術」、「修身」、「体操」、「唱歌」、「裁縫」、「英語」など当時の教科や、「ふりだし」に尋常科一年、「上がり」に高等科を卒業など、小学校の学びや進級についてすごろくで遊びながら見ていくことができるものとなっています。



催し物のご案内

★テーマ展「近代の学校の姿」

11 月 2 日(土)～2025 年 1 月 13 日(月)

学校と地域との関わりや教育のあり方、校舎などの建物の様子等を紹介しながら現代の学校へとつながる近代の学校の姿について紹介します。

【展示に関連する】

- ・ワークショップ「昔の学校を体験してみよう」

日時 11 月 16 日(土) (申込不要)

- ・はまはく講座「近代の小学校での学び」

日時 12 月 14 日(土) (要事前申込)

- ・ギャラリートーク

日時 11 月 2 日(土) (申込不要)

★小展示「道具たちの 100 年」

11 月 12 日(火)～2025 年 3 月 9 日(日)

小学校 3 年生社会科「道具とくらしのうつりかわり」に合わせてくらしの道具の変遷を紹介します。

★社会科自由研究優秀作品展

10 月 8 日(火)～10 月 27 日(日)

市内の小・中学生による自由研究の優秀作品を展示します。

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

10 月 12 日(土)、11 月 9 日(土)

14:00 から 30 分程度

会場 旧高山家住宅（蜷塚公園内）

参加無料

事前申込不要



★体験学習「冬休み体験館」

12 月 26 日(木)～12 月 28 日(土)

2025 年 1 月 4 日(土)～1 月 5 日(日)

展示の見学や様々な体験活動を通して、楽しみながら歴史について学ぶことができます。

★観覧無料日 11/3(日)文化の日

蜷塚遺跡ガイドツアー

10:00～11:00 受付前に集合(申込不要)

※各事業の詳細は、HP や SNS でご確認ください。
※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
X (旧ツイッター)
Instagram



浜松市博物館

開館時間：9 時～17 時

10 月～12 月の休館日：10/7,15,21,23,28 11/5,11,18,25,27 12/2,9,16,23,29,30,31

〒432-8018 浜松市中央区蜷塚四丁目 22 番 1 号

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/